

2026年4月22日 全8頁

## Indicators Update

# 2026年3月貿易統計

中東緊迫化の影響は4月以降本格化/1-3月期外需はプラスを見込む

経済調査部 エコノミスト 秋元 虹輝

### [要約]

- 2026年3月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+11.7%と7カ月連続で増加し、季節調整値も前月比+1.5%と2カ月ぶりに増加した。輸入金額は前年比+10.9%と2カ月連続で増加した一方、季節調整値は前月比▲2.9%と5カ月ぶりに減少した。貿易収支は+6,670億円と2カ月連続の黒字となり、季節調整値でも+907億円と2カ月ぶりの黒字となった。
- 2026年1-3月期の実質GDP成長率における外需寄与度はプラスを見込む。財貨の実質輸出は前期比+1.5%、実質輸入は同▲0.2%と試算される。
- 輸出数量（季節調整値）は前月比+2.6%と2カ月ぶりに増加した。AI・データセンター需要を追い風に、半導体等製造装置やIC（集積回路）の輸出が増加に寄与した。一方、自動車は減少した。ホルムズ海峡の事実上の封鎖を受けて中東向けが減少したことが影響した。
- 先行きの輸出数量は、横ばい圏で推移するだろう。AI・データセンター需要が引き続き輸出を下支えする一方、中東情勢の緊迫化による供給制約や中東向け輸出・生産抑制などが輸出に逆風となるリスクが燻っている。

## 【貿易金額】中東情勢緊迫化の輸入への影響本格化は4月以降か

2026年3月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+11.7%とコンセンサス（同+11.0%、Bloomberg 調査）を上回り、7カ月連続で増加した（**図表1**）。主因は円安効果などによる輸出価格の上昇（同+7.5%）であるものの、輸出の実勢を示す数量も同+3.9%と前年から増加した。AI・データセンター需要を追い風に半導体等電子部品や特殊素材を含む非鉄金属が好調だった。輸出金額の季節調整値は前月比+1.5%と2カ月ぶりに増加した（**図表2左**）。輸出価格（以下、数量と価格の季節調整値は大和総研による）は低下した一方、輸出数量が増加した。

輸入金額は前年比+10.9%と2カ月連続で増加した（**図表1**）。数量（同+2.4%）、価格（同+8.3%）がともに金額を押し上げた。2月末には米国・イスラエルによるイラン攻撃を受けてホルムズ海峡が事実上封鎖されたが、原油及び粗油の輸入は数量ベースで前年から増加しており、数量面での影響は3月時点では限定的だった。また、この間資源価格の高騰があったものの、原油及び粗油の輸入価格は同▲14.5%と前年の水準を大きく下回った。数量・価格両面で影響が限定的だったのは、イラン攻撃以前に契約された原油等が3月中の輸入の大半を占めたことが背景にある。そのため、影響本格化は4月以降になりそうだ。もっとも、前年比よりも影響が早く出やすい季節調整値で見ると中東情勢の影響の兆候も確認できる。輸入金額の季節調整値は前月比▲2.9%と5カ月ぶりに減少しており、その中身を見ると輸入価格が上昇する一方、輸入数量が減少した（**図表2右**）。原油及び粗油は数量ベースで1割程度減少した。

貿易収支は+6,670億円と2カ月連続の黒字となった。季節調整値でも+907億円と2カ月ぶりの黒字となった（**図表3**）。2026年1-3月期の実質GDP成長率における外需寄与度はプラスを見込む。財貨の実質輸出は前期比+1.5%、実質輸入は同▲0.2%と試算される。なお、ホルムズ海峡の事実上の封鎖により、4月以降は原油輸入量の減少による影響が強まり、貿易収支への黒字圧力が強まるという特殊な状況が生じる可能性もある。

図表1：貿易統計の概況

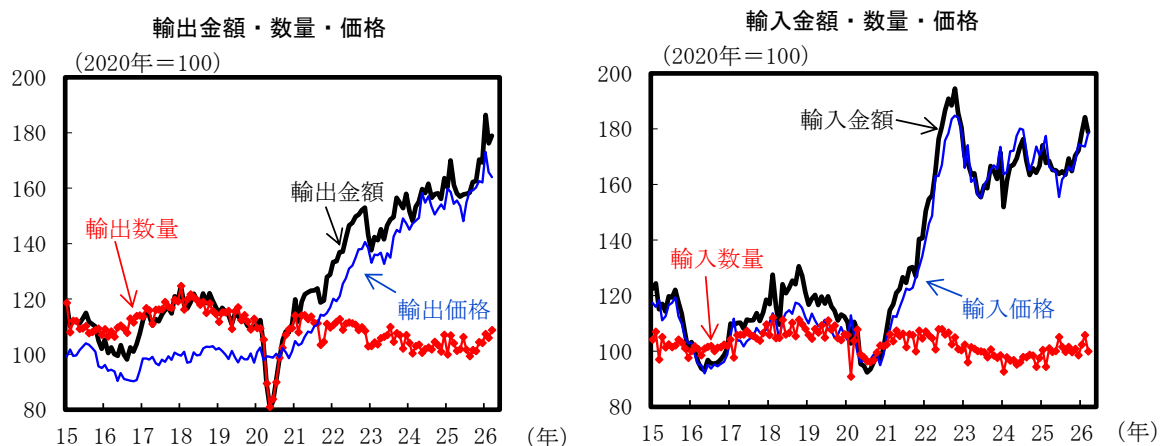
		2025年							2026年		
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
原系列 前年比 %	輸出金額	▲2.8	▲0.1	4.1	3.6	6.1	5.1	16.8	4.0	11.7	
	コンセンサス									11.0	
	DIRエコノミスト予想									10.9	
	輸入金額	▲7.3	▲5.1	3.3	0.8	1.4	5.4	▲2.6	10.3	10.9	
	輸出数量	0.7	▲4.0	▲1.1	▲1.3	0.4	▲1.3	8.8	▲0.9	3.9	
	価格	▲3.5	4.0	5.3	5.0	5.7	6.4	7.3	5.0	7.5	
季節 調整値 前月比 %	輸入数量	4.0	▲0.1	5.7	1.3	3.6	2.9	▲0.6	12.2	2.4	
	価格	▲10.9	▲4.9	▲2.3	▲0.5	▲2.2	2.4	▲2.0	▲1.7	8.3	
	貿易収支(億円)	▲1,563	▲2,941	▲2,777	▲2,429	3,060	947	▲11,658	443	6,670	
	輸出金額	0.1	0.3	2.4	0.2	4.8	▲0.6	10.1	▲5.5	1.5	
	数量	▲4.3	▲2.3	2.2	▲0.4	3.3	▲0.3	3.1	▲1.3	2.6	
	価格	4.6	2.6	0.2	0.6	1.5	▲0.3	6.8	▲4.2	▲1.1	
季節 調整値 前月比 %	輸入金額	0.5	▲0.7	3.6	▲2.7	3.4	1.1	3.6	3.2	▲2.9	
	数量	▲3.4	▲1.8	1.8	▲1.9	1.2	▲2.3	3.9	3.4	▲5.6	
	価格	4.1	1.1	1.7	▲0.8	2.2	3.5	▲0.3	▲0.2	2.8	
	貿易収支(億円)	▲3,061	▲2,157	▲3,255	▲469	782	▲896	5,341	▲3,678	907	
税関長公示レート		145.56	147.73	147.61	149.51	153.17	155.86	156.91	155.65	156.60	

(注1) 税関長公示レートは円/ドルレート。コンセンサスはBloomberg。

(注2) 数量と価格の季節調整値は大和総研による。

(出所) 財務省、Bloomberg より大和総研作成

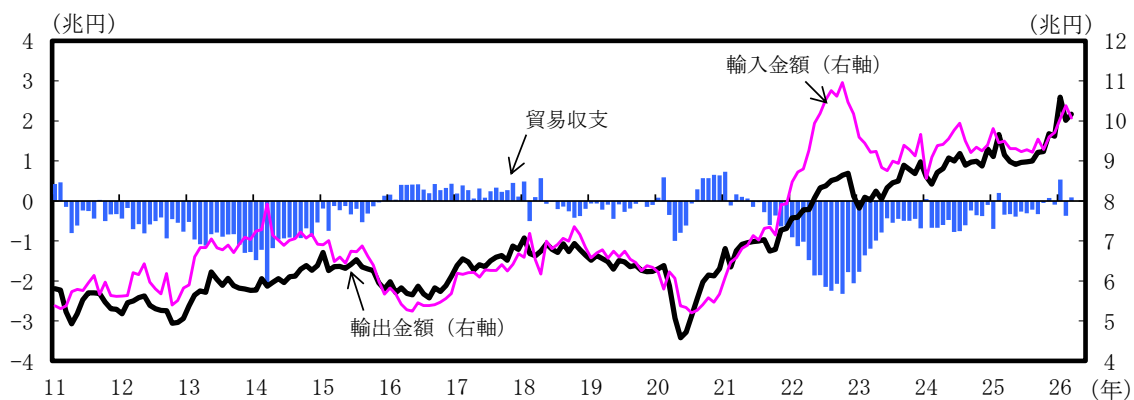
図表2：輸出金額・数量・価格、輸入金額・数量・価格（季節調整値）



(注) 輸出数量、輸入数量、輸出価格、輸入価格の季節調整は大和総研。

(出所) 財務省統計より大和総研作成

図表3：輸出、輸入、貿易収支（季節調整値）



(出所) 財務省統計より大和総研作成

## 【輸出数量】中東向け自動車輸出が減少も、好調な情報関連財が指数を押し上げ

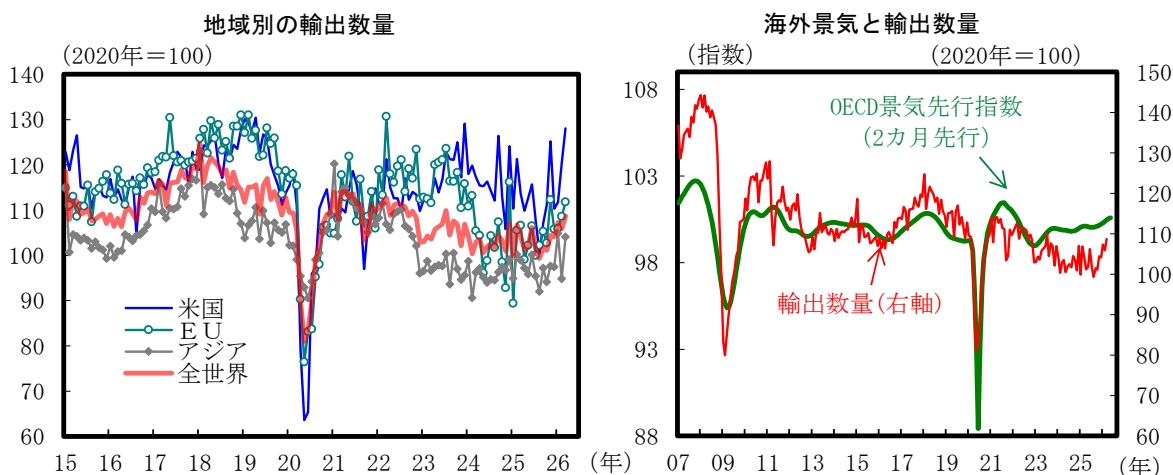
輸出数量（季節調整値）は前月比+2.6%と2カ月ぶりに増加した。AI・データセンター需要を追い風に、半導体等製造装置やIC（集積回路）の輸出が増加に寄与した。一方、自動車は減少した。ホルムズ海峡の事実上の封鎖を受けて中東向けが減少したことが影響した。自動車のうち中東向けが金額の1割強を占めることから、輸出への下押しは当面続きそうだ<sup>1</sup>。

数量全体を地域別で見ると、米国向け（前月比+6.3%）、EU向け（同+2.9%）、アジア向け（同+9.8%）のいずれも増加した。アジア向けのうち中国向け（同+29.9%）は前月の反動もあり増加幅が大きかったものの、均してみれば横ばい圏で推移した（巻末の「**地域別の輸出数量（季節調整値、3カ月後方移動平均）**」参照）。

米国向けとEU向けは3カ月連続で増加した。ともに広範な品目で増加が見られ、中でも医薬品や自動車関連財（自動車、自動車の部分品、原動機）などの増加が目立った。鉄鋼や非鉄金属は小幅に減少したものの、振れを均せば横ばい圏で推移する。

アジア向けは2カ月ぶりに増加した。半導体等製造装置やICなどの情報関連財を中心に広範な品目で増加が見られた。半導体等製造装置はこれまで中国を除くアジア向けが好調な一方、中国向けが軟調に推移してきたが、3月には中国向けも増勢に転じた可能性がある。なお、中国向けについて詳しく見ると、自動車やテレビ受像機などの耐久消費財が大きく減少した。不動産不況の継続や、中国政府による消費刺激策の反動を背景とした、中国国内の消費の弱さを反映しているとみられる。

図表4：地域別の輸出数量、海外景気と輸出数量（季節調整値）



(注) OECD 景気先行指数 (CLI) は G20 ベース。輸出数量の季節調整は大和総研。

(出所) 財務省、OECD 統計より大和総研作成

<sup>1</sup> 貿易統計によると、2025 年の中東向け自動車輸出額は 2 兆 4,483 億円（中東向け総輸出額の 53%が自動車、世界向け自動車輸出額の 14%が中東向け）である。特に、ホルムズ海峡を経由して輸出されるサウジアラビアやアラブ首長国連邦、クウェート、カタールなどへの輸出が多い。

## 【見通し】輸出数量は横ばい圏での推移を見込むも中東情勢の緊迫化が下押しリスクに

先行きの輸出数量は、横ばい圏で推移するだろう。AI・データセンター需要が引き続き輸出を下支えする一方、中東情勢の緊迫化による供給制約や中東向け輸出・生産抑制などが輸出に逆風となるリスクが燻っている。

中東情勢が収束に向かう兆しも見られるものの、ホルムズ海峡の通航が正常化するかについては依然として不透明感が強い。もっとも、不確実性に敏感な資本財輸出の先行指標である工作機械受注（外需）は米国・イスラエルによるイラン攻撃以降も堅調<sup>2</sup>であり、現時点で世界的な需要腰折れの兆候は見られない。しかし、国内では既に供給制約<sup>3</sup>や中東向け生産・輸出抑制<sup>4</sup>の動きも見られることから、ホルムズ海峡の事実上の封鎖状態が長引くリスクには警戒が必要だ。

米国向けは横ばい圏で推移するだろう。日米合意に基づく対米投融資プロジェクトなどが日本からの資本財輸出を後押しする可能性がある一方、中東情勢の緊迫化による悪影響も懸念される。米欧ではエネルギーの中東依存度は必ずしも高くないものの、グローバルな資源価格の高騰を通じてコストプッシュ・インフレが生じる可能性がある。こうした資源価格の高騰で米国の個人消費が下押しされれば、日本からの輸出にも悪影響が及ぶ可能性がある。

アジア向けは軟調に推移するだろう。情報関連財の輸出が引き続き底堅く推移するものの、中東情勢の緊迫化の悪影響が懸念される。アジア各国・地域は原油等の輸入における中東依存度が比較的高く、中東情勢の緊迫化による供給制約のリスクに留意が必要だ。アジア向けのうち中国向けも軟調な推移が見込まれる。中国側統計で見た3月の輸入急増を受け、「地産地消」を促す「国内大循環」政策の見直しがあったのではないかとの見方も一部ある<sup>5</sup>。事実であれば日本の対中輸出にも追い風となるものの、中国の内需の弱さが日本の対中輸出を下押しする構図自体は当面続くと思われる。また、中国内の深刻な過剰投資問題の影響を受け、鉄鋼・プラスチックなどの素材製品を中心に日本からの輸出は抑制されるだろう。

欧州向けは持ち直しの動きが鈍化するだろう。3月のユーロ圏景況感指数（欧州委員会）やユーロ圏 PMI（S&P Global）を見ると、鉱工業や製造業の景況感が相対的に堅調に推移する一方、消費者信頼感や小売業、サービス業などの項目の悪化が目立つ。インフレ率の加速による内需の下振れが、日本からの消費財輸出の逆風となる可能性に留意が必要だ。

<sup>2</sup> 2026年3月の工作機械受注統計（速報値、日本工作機械工業会）によると、海外受注額は前年比+40.4%と大幅な伸びとなった。

<sup>3</sup> エチレンなどの原料となるナフサ（粗製ガソリン）が中東から調達しにくくなることを受け、3月上中旬以降、国内の化学メーカーで減産が相次いでいる。詳細は「[ホルムズ海峡封鎖、国内工場・運輸に波及 火力発電の出力抑制や船減便](#)」（日本経済新聞 電子版、2026年3月24日）などを参照。ホルムズ海峡の事実上の封鎖による日本経済への影響については、田村統久・畑中宏仁「[中東産原油等の輸入10%減少で日本経済はマイナス成長へ](#)」（大和総研レポート、2026年3月18日）を参照。

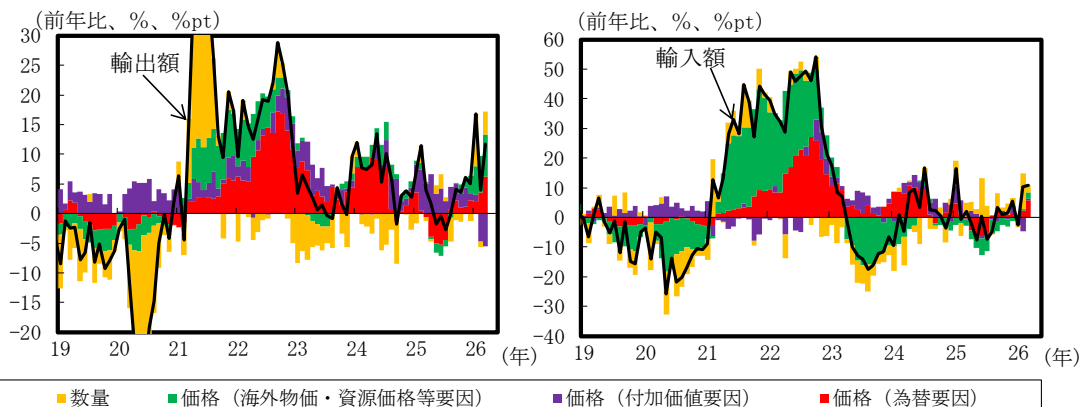
<sup>4</sup> 詳細は「[マツダ、中東向け生産を5月まで停止 欧米向けに振り替え](#)」（日本経済新聞 電子版、2026年4月6日）を参照。

<sup>5</sup> 詳細は齋藤尚登「[中国：2026年は政府成長率目標の下限か](#)」（大和総研レポート、2026年4月21日）を参照。

概況

輸出額の変化とその要因分解

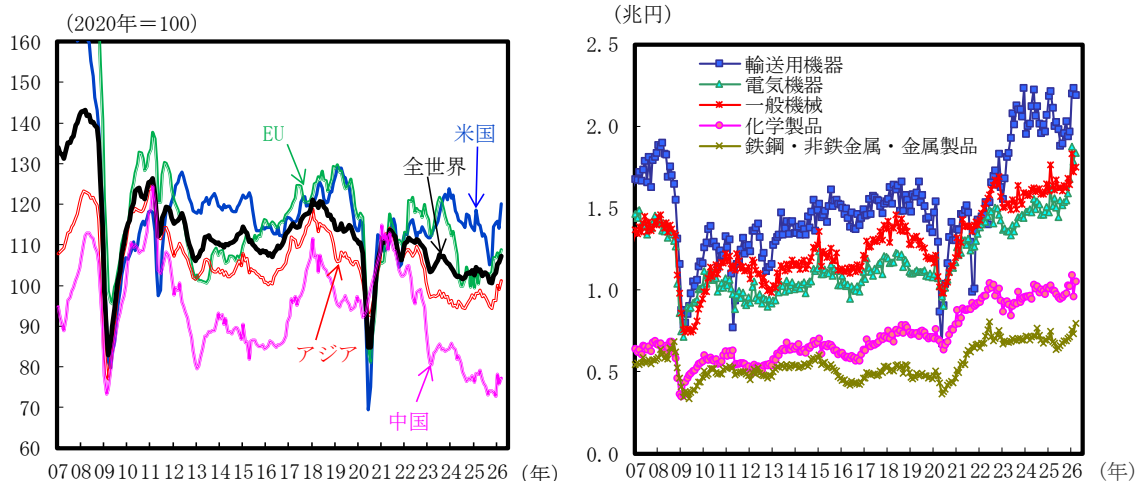
輸入額の変化とその要因分解



(注) 価格(付加価値要因)は、輸出(入)物価指数(円ベース)で実質化した輸出(入)額と輸出(入)数量それぞれの増加率の差。価格(海外物価要因)は、輸出(入)物価指数(契約通貨ベース)の上昇率。価格(為替要因)は、輸出(入)物価指数(円ベース)の上昇率と価格(海外物価要因)の差。  
 (出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

地域別の輸出数量(季節調整値、3カ月後方移動平均)

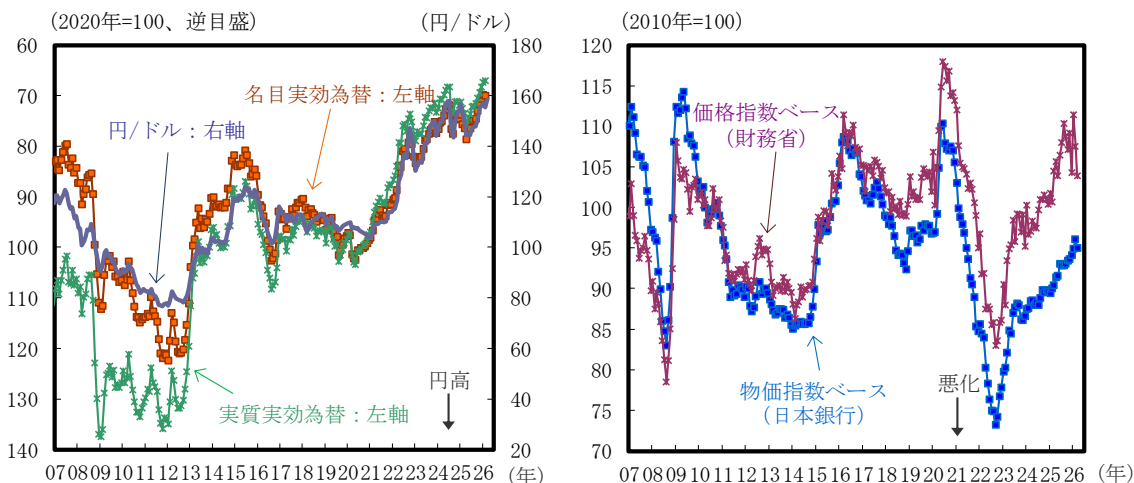
主要商品別の輸出額(名目、季節調整値)



(注) 季節調整は大和総研。  
 (出所) 財務省統計より大和総研作成

為替相場

交易条件



(注) 交易条件は、輸出価格指数/輸入価格指数(輸出物価指数/輸入物価指数)。輸出入価格指数の直近値は大和総研による試算値。  
 (出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

輸出金額 内訳								
	2025/10	2025/11	2025/12	2026/01	2026/02	2026/03		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	3.6	6.1	5.1	16.8	4.0	11.7	100.0	11.7
食料品	13.2	10.9	5.6	31.2	3.5	9.4	1.2	0.1
原料品	21.2	15.3	19.9	22.5	13.9	28.2	1.8	0.5
鉱物性燃料	16.9	9.2	5.1	20.5	37.2	66.0	1.2	0.6
化学製品	▲1.6	5.5	1.0	8.1	▲6.2	5.7	10.3	0.6
原料別製品	2.4	1.2	3.6	8.9	▲2.6	12.7	10.9	1.4
鉄鋼	▲4.0	▲9.0	▲6.2	▲10.8	▲15.5	▲1.9	3.3	▲0.1
非鉄金属	10.0	14.8	17.5	36.0	17.6	44.8	3.4	1.2
金属製品	3.8	2.0	1.7	17.4	1.6	10.4	1.3	0.1
一般機械	2.3	4.9	▲0.2	14.3	▲2.4	7.1	18.5	1.4
電気機器	5.8	7.4	11.3	27.3	10.3	21.5	17.5	3.5
半導体等電子部品	15.8	12.9	26.6	38.5	25.1	29.3	6.3	1.6
IC	15.2	12.1	25.3	40.6	32.3	30.7	4.6	1.2
映像機器	▲7.5	5.4	10.7	12.8	1.6			
映像記録・再生機器	4.0	24.3	33.3	32.1	21.6	30.1	0.4	0.1
音響・映像機器の部分品	▲4.3	▲2.1	▲2.9	5.7	▲11.2	▲6.4	0.1	▲0.0
電気回路等の機器	5.7	4.6	7.3	22.9	1.0	13.2	2.0	0.3
輸送用機器	1.1	▲2.5	▲5.0	0.7	1.3	3.4	21.0	0.8
自動車	0.4	▲4.2	▲3.1	0.4	2.3	0.9	14.7	0.1
自動車の部分品	▲6.8	▲7.4	▲10.5	1.4	▲9.9	2.3	3.0	0.1
その他	7.0	18.5	20.5	39.4	16.4	18.1	17.4	3.0
科学光学機器	▲5.5	▲0.5	▲0.5	21.6	▲8.6	11.1	2.5	0.3

米国向け輸出金額 内訳								
	2025/10	2025/11	2025/12	2026/01	2026/02	2026/03		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲3.1	8.8	▲11.1	▲5.1	▲8.0	3.4	100.0	3.4
食料品	10.9	20.0	2.8	2.7	▲4.3	27.7	1.5	0.3
原料品	▲1.1	3.6	2.3	27.5	18.5	2.1	0.5	0.0
鉱物性燃料	1813.2	2588.9	▲52.7	▲34.8	173.2	212.1	0.1	0.1
化学製品	▲18.2	48.0	0.9	▲30.7	▲16.1	▲7.1	6.4	▲0.5
原料別製品	9.6	2.3	▲4.4	2.2	3.9	8.7	7.1	0.6
鉄鋼	▲14.5	▲20.9	▲14.7	▲19.7	2.2	10.0	1.3	0.1
非鉄金属	33.0	▲5.6	▲10.2	27.1	33.2	7.1	1.1	0.1
金属製品	4.0	6.5	▲0.2	5.7	1.2	10.3	1.6	0.2
一般機械	▲3.6	▲1.1	▲12.9	▲1.0	▲0.5	3.1	22.9	0.7
電気機器	▲3.5	0.9	▲7.3	6.3	2.3	14.7	16.0	2.1
半導体等電子部品	▲20.4	▲14.2	▲16.3	▲13.9	▲11.4	▲9.4	1.4	▲0.2
IC	▲35.9	▲28.1	▲28.0	▲15.1	▲23.9	▲25.2	0.5	▲0.2
映像機器	▲14.1	6.6	6.6	▲13.7	1.9			
映像記録・再生機器	▲3.6	24.6	20.2	▲6.7	3.0	▲1.3	0.4	▲0.0
音響・映像機器の部分品	22.0	28.2	24.4	17.8	▲3.3	10.8	0.1	0.0
電気回路等の機器	11.3	0.5	▲4.6	8.7	▲0.2	3.4	1.4	0.0
輸送用機器	▲5.2	0.7	▲16.3	▲5.6	▲13.0	1.2	33.2	0.4
自動車	▲7.5	1.5	▲19.2	▲9.9	▲14.8	▲1.6	25.4	▲0.4
自動車の部分品	▲9.1	▲8.5	▲15.7	0.9	▲15.9	2.0	5.3	0.1
その他	2.9	35.5	▲6.3	▲8.4	▲20.6	▲2.1	12.3	▲0.3
科学光学機器	▲21.7	▲11.1	▲9.7	7.9	▲14.4	18.7	3.1	0.5

EU向け輸出金額 内訳								
	2025/10	2025/11	2025/12	2026/01	2026/02	2026/03		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	9.2	19.5	2.5	29.6	14.0	18.2	100.0	18.2
食料品	33.1	78.2	37.9	49.3	35.5	28.3	0.9	0.2
原料品	▲4.0	36.9	▲19.0	72.4	7.9	▲6.9	1.1	▲0.1
鉱物性燃料	34.8	193.8	11.3	121.0	45.6	▲62.4	0.1	▲0.1
化学製品	▲16.6	▲3.1	▲21.9	▲5.4	0.3	▲2.8	10.1	▲0.3
原料別製品	18.9	25.2	▲6.3	16.7	5.7	20.7	7.1	1.4
鉄鋼	33.6	17.8	▲20.6	▲0.7	1.9	59.3	1.4	0.6
非鉄金属	21.7	17.0	8.5	33.3	37.1	41.2	1.2	0.4
金属製品	14.0	24.3	▲1.7	25.6	9.5	6.9	1.3	0.1
一般機械	18.5	29.1	▲1.0	33.3	17.8	24.5	20.7	4.8
電気機器	11.5	26.3	5.9	25.0	20.2	21.8	16.7	3.5
半導体等電子部品	41.9	20.7	35.3	46.6	36.4	16.2	2.4	0.4
IC	100.3	56.4	39.4	92.6	100.5	73.0	0.9	0.5
映像機器	13.7	60.0	18.1	18.4	54.8			
映像記録・再生機器	20.2	64.4	28.2	33.1	74.7	68.6	0.9	0.4
音響・映像機器の部分品	▲12.7	▲5.7	19.4	5.9	4.7	1.6	0.1	0.0
電気回路等の機器	13.7	25.5	14.3	12.3	22.3	10.5	1.5	0.2
輸送用機器	5.7	23.7	10.6	49.6	11.1	13.3	25.7	3.6
自動車	▲0.2	25.6	23.2	67.6	26.3	21.1	18.6	3.8
自動車の部分品	▲1.1	12.2	▲17.9	22.9	▲18.4	▲4.8	3.1	▲0.2
その他	16.8	9.1	12.8	27.8	21.1	33.0	17.6	5.1
科学光学機器	5.8	1.3	▲6.4	16.7	▲6.9	8.0	4.3	0.4

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。映像機器は、速報時点では公表されない。

(出所) 財務省統計より大和総研作成

アジア向け輸出金額 内訳								
	2025/10	2025/11	2025/12	2026/01	2026/02	2026/03		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	4.2	4.4	10.2	25.7	2.7	15.9	100.0	15.9
食料品	10.4	2.3	6.5	42.9	▲0.4	8.0	1.3	0.1
原料品	24.9	16.2	25.5	22.6	14.6	36.0	2.8	0.9
鉱物性燃料	5.6	▲6.6	3.6	24.5	25.0	51.5	1.7	0.7
化学製品	0.8	▲0.4	7.2	20.4	▲5.0	9.7	13.6	1.4
原料別製品	0.5	0.3	3.3	13.6	▲0.5	15.1	13.4	2.0
鉄鋼	▲5.5	▲11.2	▲11.7	▲6.0	▲14.4	▲9.5	3.6	▲0.4
非鉄金属	6.9	14.3	19.1	33.5	20.6	49.1	5.4	2.1
金属製品	3.2	1.1	6.9	20.1	▲0.5	11.1	1.3	0.1
一般機械	1.7	2.8	2.9	19.2	▲12.7	8.3	19.0	1.7
電気機器	7.3	6.7	17.9	33.0	10.6	24.0	21.5	4.8
半導体等電子部品	16.9	14.0	29.2	42.2	27.2	33.1	10.4	3.0
IC	16.1	12.6	27.2	41.7	33.3	32.4	8.0	2.3
映像機器	▲11.4	▲6.0	14.1	16.6	▲13.6			
映像記録・再生機器	▲3.9	6.6	43.1	48.5	0.7	39.3	0.3	0.1
音響・映像機器の部分品	▲12.6	▲3.2	▲12.0	▲9.4	▲19.6	▲11.4	0.1	▲0.0
電気回路等の機器	3.4	2.7	8.4	27.5	▲1.8	16.7	2.7	0.4
輸送用機器	▲2.7	▲1.2	▲6.8	▲10.5	▲6.9	5.1	7.0	0.4
自動車	9.1	▲6.6	4.9	▲6.7	▲7.9	▲4.7	4.0	▲0.2
自動車の部分品	▲6.2	▲9.2	▲4.0	▲0.2	▲1.6	7.3	2.0	0.2
その他	7.9	11.2	22.0	50.7	17.6	20.7	19.7	3.9
科学光学機器	▲3.2	3.3	3.4	29.4	▲8.4	11.0	2.6	0.3

中国向け輸出金額 内訳								
	2025/10	2025/11	2025/12	2026/01	2026/02	2026/03		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	2.1	▲2.5	5.5	32.0	▲11.0	17.7	100.0	17.7
食料品	0.2	▲5.9	3.0	43.6	▲23.8	16.4	0.7	0.1
原料品	56.9	27.7	65.4	64.3	35.1	57.8	4.3	1.9
鉱物性燃料	10.7	0.7	45.2	▲9.2	7.7	▲12.8	1.1	▲0.2
化学製品	2.8	▲1.0	5.6	36.5	▲16.6	16.5	18.0	3.0
原料別製品	▲3.4	▲13.9	▲3.4	25.5	▲18.4	20.3	11.2	2.2
鉄鋼	▲6.3	▲7.6	▲13.7	24.5	▲30.1	▲12.7	1.9	▲0.3
非鉄金属	▲7.9	▲26.8	▲6.5	16.7	▲10.6	56.5	5.0	2.1
金属製品	2.1	▲10.1	2.6	15.7	▲15.6	▲1.5	1.2	▲0.0
一般機械	▲5.0	▲6.6	▲2.0	33.4	▲22.5	9.0	24.6	2.4
電気機器	3.0	1.7	9.2	36.4	▲0.7	26.7	20.4	5.1
半導体等電子部品	18.9	22.8	22.3	48.2	39.5	44.1	7.5	2.7
IC	14.9	21.1	20.1	48.0	62.4	52.8	5.5	2.2
映像機器	▲17.2	▲15.0	9.8	17.9	▲26.9			
映像記録・再生機器	▲17.4	▲11.0	54.8	65.8	▲27.8	38.5	0.4	0.1
音響・映像機器の部分品	▲11.3	▲6.9	▲21.4	▲5.4	▲13.3	▲15.5	0.1	▲0.0
電気回路等の機器	▲1.9	▲4.4	7.5	26.5	▲16.6	16.6	3.1	0.5
輸送用機器	7.8	▲14.9	▲6.8	▲20.7	0.3	▲12.2	4.7	▲0.8
自動車	23.1	▲6.3	▲0.3	▲18.9	18.3	▲15.8	3.0	▲0.7
自動車の部分品	▲15.9	▲28.6	▲21.6	▲16.3	▲24.9	▲4.2	1.5	▲0.1
その他	1.7	4.4	12.0	50.1	▲9.8	29.4	15.0	4.0
科学光学機器	▲2.1	7.5	3.4	30.8	▲24.0	9.3	3.1	0.3

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。映像機器は、速報時点では公表されない。

(出所) 財務省統計より大和総研作成